

令和元年度 第2回 海老名環境マネジメントシステム専門部会 会議録

日時等	令和2年2月12日(水) 10:00~11:30		
案件	・海老名環境マネジメントシステムによる海老名市第三次環境基本計画の進行管理について〈協議〉		
出席委員	大橋部会長 伊藤委員 後藤委員 計3名		
公開の可否	公開	傍聴者数	0名
出席者・事務局	<出席者> 経済環境部：谷澤部長、松本次長 <事務局> 環境課：小川経済環境部参事兼課長、蓬田主幹兼環境共生係長 森田主査、松本主事		

1 開会 (進行：環境課長)

2 経済環境部長あいさつ

3 部会長あいさつ

4 議事 (海老名市環境審議会条例第7条第1項に基づき部会長が議長となる。)

事務局：(1) 委員過半数出席により会議成立を報告

(2) 傍聴希望者 0名

・海老名環境マネジメントシステムによる海老名市第三次環境基本計画の進行管理について …… 協議事項

委員： 第三次環境基本計画に設定された目標指標の一覧が示されているが、計画に基づいて取り組む事業はここに記載されたもので全てということか。

事務局： 目標を設定して取り組んでいく事業を一覧化したものであり、これ以外にも様々な取組みを進めていく。

委員： 目標を設定している事業の所管課を見ると環境課が多く見受けられるが、どのように取組を進めていくのか。

事務局： 環境基本計画という計画の性質上、どうしても環境課が主になって進めていく取組は多くなってしまおうものと考えている。しかしな

がら、取組の中には環境課だけでなく関係課とともに進めていくものもあり、そうした取組については、しっかり協力しながら取組を推進していく。

委員： 今後、取組が進んでいないと思われるものについて、他部門が原因と思われるものについてはどのように対応していくのか。

事務局： 環境課が担当となっている取組に関していただいた意見については、関係課に伝達し、反映できるところをしっかりと取組に活かしていけるようにしていきたい。

委員： 新計画の内容について、プロセスを踏まえた作りになっていることや数値管理できる取組を計画に取り入れているところは、大きな変化を感じるどころであり良いところであると感じる。

確認したい点としては、新計画における調書の進捗実績の欄にはどのような内容を記載する考えなのか。

事務局： 基本的には、設定した当年度の進捗見込とともに実績値を記載してもらおうと考えている。これにより、当該年度の見込と実績の差異を比較できるとともに計画に掲げた目標値との差異も比較できると考えている。

委員： 数値だけの比較だと、差異が見えにくい場合があると思われるので、達成率を併記することで、より進捗度合いがわかりやすくなるのではないか。

事務局： 事業によっては達成率を記載しにくいものもあるが、原則記載してもらおうよう、記載欄を設けることを検討する。

委員： 計画における指標の設定について、施策の方針ごとにポイントとなる目標指標を設定し、その指標の進捗度合いを測るために複数の個別指標を設けて管理していくという仕組みは、プロセスを重視した考え方として、良いものであると考える。

個別指標を評価する上では、結果がどのようなであったかという点はもちろんであるが、その結果を出す過程でどのような取組みが行われたかということをしかりと評価できるようにしてもらいたい。その上で、施策が適切に実施されているかどうかを判断する上で、取組を踏まえてどのような課題や気づいた点を把握し、取組に反映したかという点が重要であると考えため、この点が明確になるよう調書を工夫できないか。

事務局： 今回提示した調書では課題等と変更点が同じ欄で記載するようになっているが、ここを課題等と変更点で記載欄を分けることで、把握した課題等と変更した点が明確になるようにしたい。

- 委員：こうした点を踏まえた評価が、特に内部環境評価において適切に行われるように、内部環境評価委員への教育をしっかりと行っていただきたいと考える。また、マニュアルの評価方法の項目にもプロセスを意識した評価を行うべきことを明記していただければと思う。
- 委員：第三次環境基本計画の基本方針にある「みんなで海老名の環境を考え、行動します」について、これは市民や事業者に環境への意識づけを高めていくというものでよいのか。
- 事務局：ご意見のとおりである。本計画は、市だけでなく市民や事業者と協力して推進していくという考えのもとに策定しており、第二次環境基本計画では記載はあったものの計画体系として位置付けていなかったものを、第三次環境基本計画では位置付けることとしたという面もあるので、目標を踏まえてしっかり推進していくことが必要な分野であると考えている。
- 委員：環境基本計画の推進を通じて、環境への配慮という意識が市民に醸成されることで、様々な場面で市民一人ひとりが適切な行動をとることへと繋がっていくと考えるので、専門部会の取組も環境基本計画の推進の一助となればと考える。
- 委員：第三次環境基本計画ではSDGsとの関連性を明確にしているが、一般の方への浸透に向けて周知啓発をしっかりとやっていく必要がある。他市では地元の木材でSDGsに関するピンバッジを作成・販売し、売上から経費を除いた分を環境啓発に充てている事例もある。海老名でもこうした事例を参考に周知啓発を考えてみてはどうか。
- 事務局：今回、計画策定にあたって市民まつり等のイベントで環境基本計画に関するPRを行ったところ、イベント自体の集客力もあって、多くの方にPRブースにご来場いただいた。SDGsを通じて市の環境に関する課題を市民や事業者と共有できる面もあると考えているので、SDGsに関する周知啓発もしっかり取り組んでいきたい。
- 委員：先般、資源化センターを見学する機会があり、正しい分別の方法や選別が実際にどのように行われている等、とても勉強になるところが多かった。作業の支障にならない範囲で、例えば、学校の社会科見学の一環で現地を実際に見てもらうことは、環境配慮への意識の醸成に繋がると思う。
- 事務局：全てでは無いが、学校によってプログラムに取り入れているところもある。子どもたちが知ることを通じてその保護者にも環境配慮の意識が伝わるともいえ、とても良いことだと考える。

- 委員：地域の活動では、イベントで出たごみを各自が持ち帰って分別して処分しようという考えになっており、環境配慮意識が高まっているように感じる。今後も様々な世代を対象とした周知啓発に取り組んでいてもらいたい。
- 委員：先日参加したマネジメントシステムの講演会が、内部監査の有効な実施とプロセスアプローチに関する内容であり、とても参考となる内容だった。前者は、内部監査を通じて被監査部門が業務の改善等のメリットが感じられるように実施することが必要であるというものであり、後者については、過剰な目標設定は業務に悪影響を及ぼすおそれがあるというものであった。今後の環境評価では、各部門の事情を踏まえつつ、適切な目標設定という視点でチェックしていくことも重要であると考えている。
- 部会長：それでは、本件については、事務局案に、専門部会から出た意見を適宜盛り込んだ内容で、環境審議会本会に報告するということが、了承としてよろしいか。また、その修正については、部会長と事務局に一任いただくということでもよろしいか。
- 他委員：異議なし。

6 その他

- 委員：先般開催された環境審議会本会で、海老名市緑の基本計画の進行管理について所管課から説明があったが、海老名環境マネジメントシステムで管理していくものではないという理解でよいか。
- 事務局：そのとおりである。
- 委員：計画案にはPDCAサイクルをもとに進行管理をしていくという記述はあるが、具体的にどのように行うかまでは記載されていなかった。計画である以上、海老名環境マネジメントシステムにこだわるものではないが、何かしらの進行管理は必要なのではないか。
- 事務局：緑の基本計画の進行管理に関するご意見は環境審議会本会の答申にも盛り込まれている内容であり、所管課としても、ご意見を踏まえた上で計画内容に即した進行管理を行っていくものと考えている。
- 委員：どのように進行管理を行っていくかという点について、明確にすべきではないかということで改めて意見させていただいた。

7 閉会

— 散 会 —